

会社概要
Corporate Profile



新毎日
新聞日

2026~2027



目次

- 2 憲章と企業理念・2030年ビジョンとミッション
- 3 毎日新聞社 会社概要 役員
- 4 毎日新聞グループホールディングス 役員
- 5 6 毎日新聞社の歩み
- 7 組織図
- 8 国内外の主要な取材網
- 9 文化事業
- 10 スポーツ事業
- 11 12 受賞歴
- 13 毎日新聞デジタル
- 14 刊行物
- 15 主なグループ会社・団体／友好会社

憲章と企業理念・2030年ビジョンとミッション

毎日憲章 (1946年2月制定)

- 一. 毎日新聞は言論の自由独立を確保し真実敏速な報道と公正な世論の喚起を期する。
- 一. 毎日新聞は全従業員の協同運営により社会の公器としての使命を貫徹する。
- 一. 毎日新聞は社会正義に立脚し自由、人権、労働を尊重する。
- 一. 毎日新聞は民主主義に則して文化国家の建設を推進する。
- 一. 毎日新聞は国際信義に基づき世界平和の確立に寄与する。

企業理念 (1991年10月制定・2018年2月改定)

(基本理念)

毎日新聞社は、人間ひとりひとりの尊厳とふれあいを重んじます。生命をはぐくむ地球を大切にします。生き生きした活動を通じて時代の創造に貢献します。

基本理念を受け、毎日新聞社は以下の指針に沿って行動する。

指針

- ① 言論・報道・情報・文化企業として、読者をはじめすべての人々に個性的で質の高い商品を提供する。
- ② 販売店、関連・協力企業と手を携えて毎日グループの総合力を高め、広告主などあらゆる取引先とゆるぎない信頼関係を築く。
- ③ 従業員の能力を開花させ、その生活を豊かにするとともに、株主の期待に応じて経営基盤の強化を図る。
- ④ あらゆる事業活動において、ひとりひとりの人権とプライバシーを尊重し、性別、年齢、国籍、人種、民族、出身、思想、信条、宗教、疾病、障がいの有無、性的指向、性自認等による差別を行わない。

2030年ビジョン (2022年2月制定)

個を見つめ、世の中に伝え、社会をつなぐ コミュニケーター・カンパニーへ

ミッション (2022年2月制定)

個性豊かな気づく力で、見逃されがちな社会課題を照らし出し、伝えることで、誰もが自分らしく生きられる社会を実現していく

毎日新聞社

会社概要

- 創 刊 1872年(明治5年)2月21日
- 資 本 金 1億円
- 従業員数 約2,000人
- 東京本社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
代表電話 (03) 3212-0321
- 大阪本社 〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5
代表電話 (06) 6345-1551
- 西部本社 〒802-8651 北九州市小倉北区紺屋町13-1
代表電話 (093) 541-3131
- 中部本社 〒450-8651 名古屋市中村区名駅4-7-1
代表電話 (052) 527-8000
- 北海道支社 〒060-8643 札幌市中央区北四条西6-1
代表電話 (0570) 064-988
- 通信網 総・支局81、通信部・駐在50、海外機関を設置
- 印刷拠点 12工場

役員

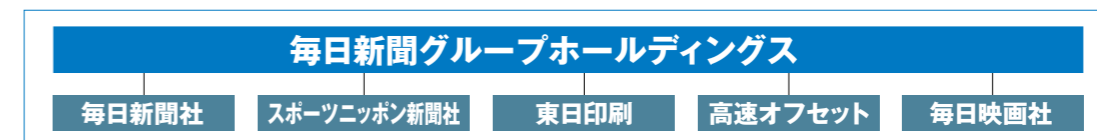
- | | | |
|-------------|-------|---------------------------|
| 代表取締役会長執行役員 | 松木 健 | |
| 代表取締役社長執行役員 | 齊藤 信宏 | |
| 取 締 役 | 砂間 裕之 | 経理担当 |
| 執行役員 | 立川 剛人 | 労務・人事戦略担当 |
| 執行役員 | 鈴江 義治 | 不動産・資材担当 |
| 執行役員 | 田畑 悦郎 | 経営企画担当 |
| 執行役員 | 平地 修 | 管理統括 財務担当 |
| 執行役員 | 鯨岡 秀紀 | 制作技術担当 制作技術本部長 |
| 執行役員 | 近藤 るみ | 販売担当 販売総本部長 大阪本社代表 |
| 執行役員 | 鶴川 勝利 | 編集担当 |
| 執行役員 | 坂口 佳代 | デジタル担当 |
| 執行役員 | 小坂 大 | 広報・コンプライアンス担当 社長室長 東京本社代表 |
| 執行役員 | 木戸 哲 | 営業担当 事業担当 営業総本部長 |
| 執行役員 | 藤井 剛 | |
| 監 査 役 | 宮澤 勲 | |

毎日新聞グループホールディングス

- 設 立 2011年(平成23年)4月1日
- 所 在 地 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

役員

- | | | |
|-----------|--------|--------------------------|
| 代表取締役社長 | 松木 健 | (毎日新聞社代表取締役会長執行役員) |
| 代 表 取 締 役 | 末次 省三 | (スポーツニッポン新聞社代表取締役社長) |
| 専 務 取 締 役 | 砂間 裕之 | (毎日新聞社取締役) |
| 取 締 役 | 齊藤 信宏 | (毎日新聞社代表取締役社長執行役員) |
| 取 締 役 | 西川 光昭 | (東日印刷代表取締役社長) |
| 取 締 役 | 島田 智 | (高速オフセット代表取締役社長) |
| 取 締 役 | 高添 博之 | (毎日映画社代表取締役社長) |
| 取 締 役 | 土井 昭人 | |
| 取 締 役 | 鯨岡 秀紀 | (毎日新聞社執行役員) |
| 取 締 役 | 塩原 悠旬 | (スポーツニッポン新聞社常務取締役) |
| 取 締 役 | 高山 将行 | (MBSメディアホールディングス代表取締役社長) |
| 取 締 役 | 阿部 龍二郎 | (TBSホールディングス代表取締役社長) |
| 常 勤 監 査 役 | 宮澤 勲 | (毎日新聞社監査役) |
| 常 勤 監 査 役 | 大石 雅康 | |
| 監 査 役 | 吉田 文和 | |
| 監 査 役 | 梅寄 貴史 | (RKB毎日ホールディングス代表取締役) |



東日印刷



毎日新聞社



スポーツニッポン新聞社



毎日映画社



高速オフセット

毎日新聞社の歩み

最も歴史のある日刊新聞

明治

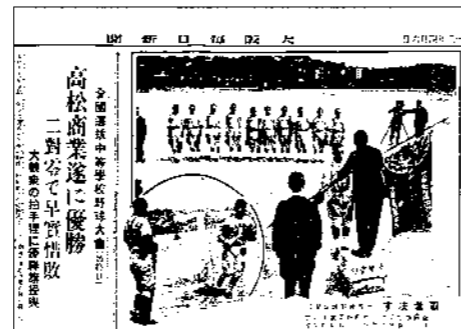
- 1872年(05) 2月21日 東京日日新聞（東京で最初の日刊紙、毎日新聞の前身）浅草で創刊
- 1875年(08) 新聞の戸別配達実施。世界初
- 1876年(09) 2月20日 大阪日報創刊
- 1888年(21) 大阪日報が大阪毎日新聞と改題
- 1911年(44) 大阪毎日新聞と東京日日新聞が合併。全国紙として第一歩を踏み出す



創刊号

大正

- 1918年(07) 全国中等学校フットボール大会（現在の全国高等学校ラグビーフットボール大会）始まる
- 1922年(11) サンデー毎日、英文毎日、点字毎日創刊
- 1923年(12) エコノミスト創刊
- 1924年(13) 第1回選抜中等学校野球大会（現選抜高等学校野球大会）開催



第1回選抜中等学校野球大会

昭和

- 1929年(04) 新渡戸稲造博士を本社顧問に招く
- 1932年(07) 日本音楽コンクール始まる
- 1936年(11) 福沢諭吉が創刊した時事新報を合同毎日小学生新聞創刊
- 1937年(12) 毎日新聞社の大相撲優勝力士掲額始まる（春場所）
- 1939年(14) 本社航空機「ニッポン」号が世界一周に成功（航程52,860キロ、所要時間194時間）日本人初の2大洋無着陸横断となる
- 1943年(18) 大阪毎日新聞、東京日日新聞の題号を毎日新聞に統一



「ニッポン」号、世界一周

昭和

- 1946年(21) 毎日憲章制定
- 1966年(41) 東京本社、有楽町から竹橋の新社屋「パレスサイドビル」に移転
- 1976年(51) 朝刊企画「記者の目」スタート
- 1977年(52) 毎日新聞社編集綱領制定
- 1987年(62) 東京本社、編集組版システム・CTS導入



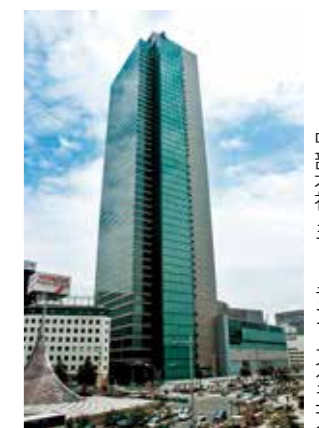
東京本社CTS始動式

平成

- 1991年(03) 毎日新聞社企業理念制定、新紙面スタート
- 1992年(04) 大阪本社、堂島から西梅田の新社屋に移転
- 1995年(07) インターネットサイト「Jam Jam」開設
- 1996年(08) 全国紙で初めて全記事の原則署名化を導入
- 2000年(12) 「開かれた新聞」委員会発足
- 2005年(17) 「教育と新聞」推進本部創設
- 2007年(19) 中部本社、ミッドランドスクエアオープン
- 水と緑の地球環境本部創設
- ニュース時事能力検定試験スタート
- 2008年(20) 毎日新聞社の環境理念、環境方針制定
- 2010年(22) 共同通信社に再加盟。地方紙12紙(4月当初)からの記事配信開始
- 2011年(23) 毎日新聞社とスポーツニッポン新聞社の共同持株会社「毎日新聞グループホールディングス」が発足
- 2013年(25) 本紙定期購読者向けサービス「愛読者セット」開始
- デジタル報道センターを創設
- 紙齢5万号を達成（東京本社、北海道支社）
- 2015年(27) 出版局が独立して「毎日新聞出版」が発足
- 電子新聞サービス「デジタル毎日」スタート
- 2016年(28) 東京2020オリンピック・パラリンピックのオフィシャル・パートナー契約を結ぶ
- 2018年(30) 企業理念を約26年ぶりに改定



大阪本社

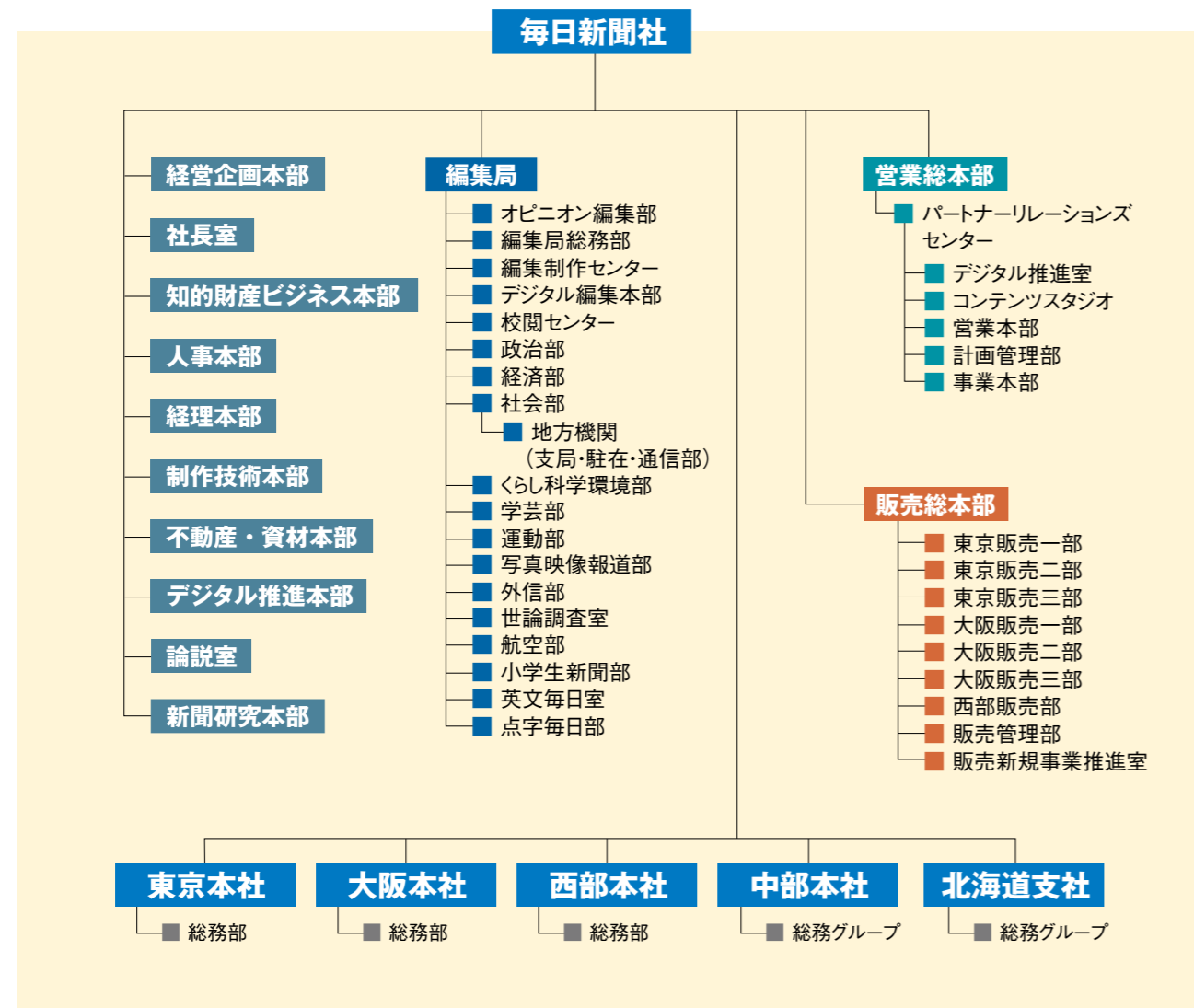
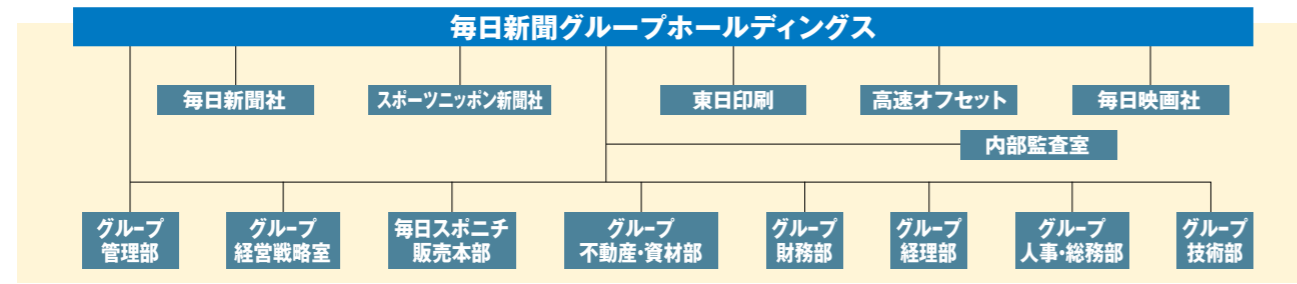


中部本社、ミッドランドスクエア

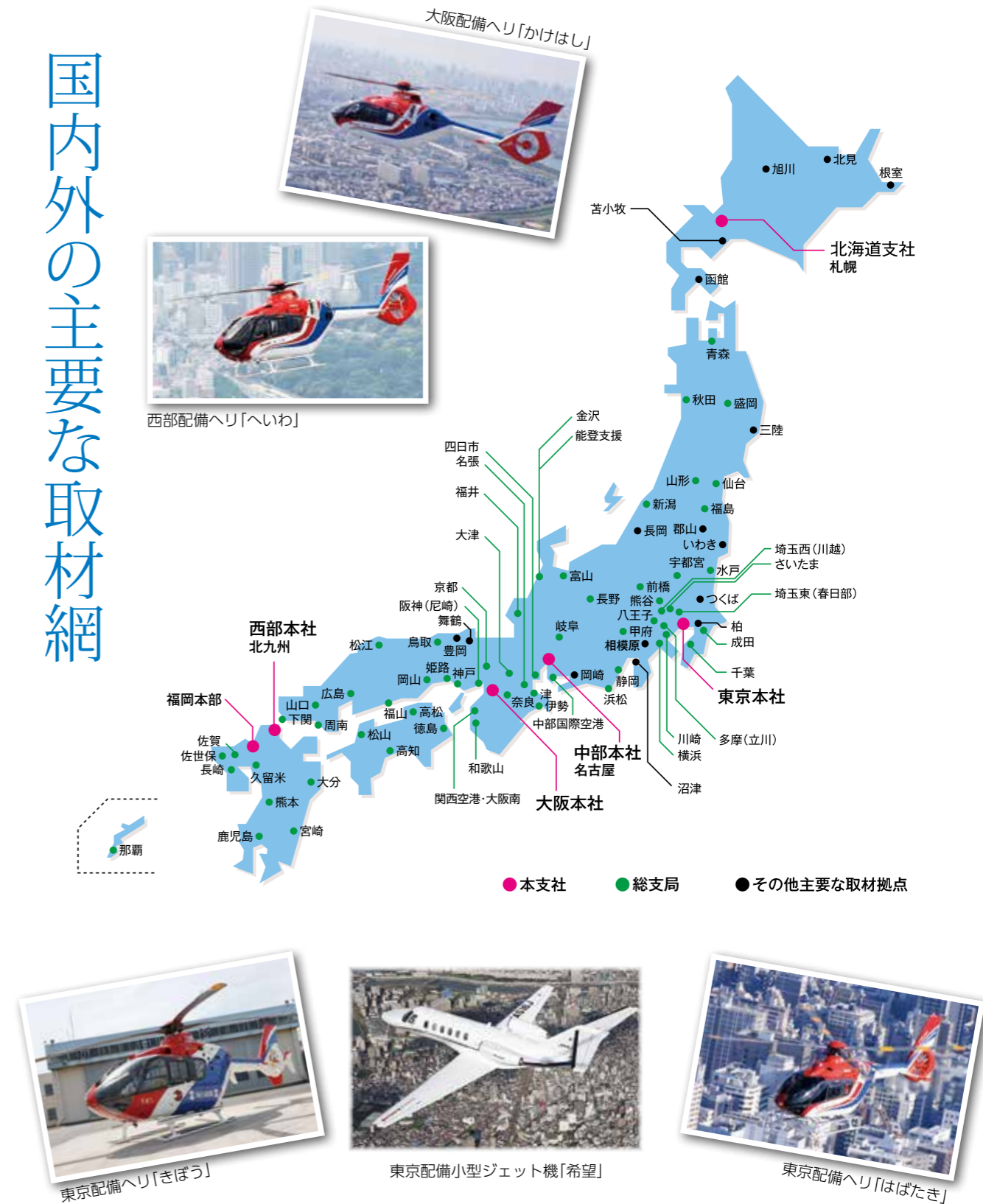
令和

- 2020年(02) SDGメディア・コンパクトに加盟
- 2021年(03) ニュースサイト全面リニューアル「毎日新聞デジタル」スタート
- 2022年(04) 創刊150年、サンデー毎日、英文毎日、点字毎日創刊100年。2030年ビジョン・ミッション制定
- 2023年(05) エコノミスト創刊100年

組織図



国内外の主要な取材網



海外取材網

南北アメリカ	● 北米総局 (ワシントン) ● ニューヨーク
アジア・アフリカ	● 中国総局 (北京) ● アジア総局 (バンコク) ● ソウル ● 台北 ● ニューデリー ● エルサレム ● カイロ
欧州・ロシア	● 欧州総局 (ブリュッセル) ● ロンドン ● ベルリン ● モスクワ

社会に貢献する文化事業



毎日書道展



毎日ファッション大賞

日本音楽コンクール

- 毎日芸術賞
- 全日本学生音楽コンクール
- 毎日ゾリステン
- 本因坊戦（囲碁）

名人戦（将棋）

- 土門拳賞
- エコノミスト賞

毎日書道展

- 毎日出版文化賞
- 毎日映画コンクール
- クボタ・毎日地球未来賞
- アジア・太平洋賞
- 現代女流書展
- 毎日広告デザイン賞
- 毎日デザイン賞

青少年読書感想文 全国コンクール

- 読書感想画中央コンクール

毎日ファッション大賞

- 日韓国際環境賞
- 毎日パソコン入力コンクール
- 点字毎日文化賞
- 全国盲学校弁論大会
- 全国児童画コンクール
- 毎日社会福祉顕彰
- 「生きる」コンサート
- 全国高校生農業アクション大賞
- 毎日農業記録賞
- 交通安全年間スローガン・ポスターデザイン募集
- 全日本アマチュア本因坊決定戦
- ジュニア本因坊戦
- 全日本学生本因坊決定戦
- 全日本女子学生本因坊決定戦
- UBE 現代日本彫刻展
- 高野山夏季大学
- 国際高校生選抜書展
- 伊勢神宮奉納書道展



名人戦



青少年読書感想文全国コンクール



日本音楽コンクール

感動を伝えるスポーツ事業

選抜高等学校野球大会

- 毎日テニス選手権
- 毎日甲子園ボウル（アメリカンフットボール）
- ユニクロ全日本ジュニアテニス

都市対抗野球大会

- 社会人野球日本選手権大会
- 全日本クラブ野球選手権大会
- 別府大分毎日マラソン大会
- 全日本実業団対抗陸上競技選手権大会
- 全日本実業団対抗駅伝競走大会（ニューイヤー駅伝）

全国高等学校駅伝競走大会

- 全日本実業団対抗女子駅伝競走大会（クイーンズ駅伝）
- 全日本学生柔道優勝大会
- 全日本学生柔道 体重別団体優勝大会
- 全日本学生剣道優勝大会
- 全日本学生剣道選手権大会
- 全国学生相撲選手権大会
- 全国道場少年剣道大会

全国高等学校ラグビー フットボール大会

- 全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会
- 大相撲優勝掲額
- 浜寺水練学校



選抜高等学校野球大会



都市対抗野球大会



全国高等学校ラグビーフットボール大会



全国高等学校駅伝競走大会

受賞歴

新聞協会賞は1957年に創設された最も権威ある日本新聞界のグランプリです。報道では最多の35回受賞しています。

新聞協会賞(受賞35回)

1957～1980年 写真「浅沼社会党委員長刺殺される」

日本で初めてピューリッター賞を受賞

企画「泥と炎のインドシナ」

スクープ記事「早大商学部入試漏えい事件」など10件

- 1981年 スクープ記事「ライシャワー元駐日大使の核持ち込み発言」
- 1986年 スクープ写真「車イスの田中元首相」
- 1987年 連載企画「一人三脚・脳卒中記者の記録」
- 1989年 連載企画「政治家とカネ」
- 1992年 「リクルート ダイエーの傘下に」のスクープと一連の続報
- 1996年 企画「アウンサンズーチー、ビルマからの手紙」
- 2000年 「片山隼君事故」から事件事故被害者の権利と支援策の確立を追求し続けたキャンペーン報道
- 2001年 「旧石器発掘ねつ造」のスクープ
- 2002年 防衛庁による情報公開請求者リスト作成に関するスクープ
- 2003年 自衛官募集のための住民基本台帳 情報収集に関するスクープ
- 2006年 「パキスタン地震」一連の写真報道
- 2007年 長崎市長銃撃事件の写真報道
- 2008年 アスベスト被害の情報公開と被害者救済に向けた一連の報道
- 2009年 「無保険の子」救済キャンペーン
- 2011年 「力士が八百長メール」のスクープをはじめ大相撲八百長問題を巡る一連の報道
- 2011年 「3・11 大津波襲来の瞬間」をとらえたスクープ写真
- 2014年 認知症の身元不明者を巡る「老いてさまよう」の一連の報道
- 2016年 連続震度7「奇跡の救出」など熊本地震の写真報道
- 2017年 リオ五輪「日本リレー初の銀」の写真報道
- 2018年 キャンペーン報道「旧優生保護法を問う」
- 2019年 「台風21号 関空大打撃」の写真報道
- 2020年 「にほんでいきる」外国籍の子どもたちの学ぶ権利を問うキャンペーン
- 2021年 写真企画「『ぬくもりは届く』～新型コロナ防護服越しの再会～」
- 2022年 「安倍晋三元首相銃撃事件」の写真報道
- 2023年 「『伝えていかねば』沖縄・渡嘉敷島 集団自決の生存者」の写真報道



浅沼社会党委員長刺殺される

日本記者クラブ賞(受賞12人、1団体)

- 1976年 松岡英夫(サンデー毎日「サンデー時評」など)
- 1984年 増田れい子(「女のしんぶん」など)
- 1987年 吉野正弘(夕刊コラム「近事片々」)
- 1990年 諏訪正人(朝刊コラム「余録」)
- 1992年 岩見隆夫(朝刊コラム「近聞遠見」など)
- 1995年 山本祐司(「最高裁物語」出版など)
- 1997年 牧太郎(サンデー毎日「オウム真理教追及キャンペーン」など)
- 1999年 黒岩徹(英国・欧州報道)
- 2010年 梅津時比古(クラシック音楽評論)
- 2012年 萩尾信也(連載「三陸物語」)
- 2014年 山田孝男(朝刊コラム「風知草」)
- 2018年 週刊点字新聞「点字毎日」に特別賞
- 2020年 青野由利(朝刊コラム「土記」ほか科学報道全般)

ボーン・上田記念国際記者賞(受賞13人)

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 1950年 | 高田市太郎 | 1965年 | 三好修 | 2010年 | 大治朋子 |
| 1956年 | 橋善守 | 1966年 | 高田富佐雄 | 2011年 | 会川晴之 |
| 1959年 | 山内大介 | 1975年 | 古森義久 | 2025年 | 金子淳 |
| 1960年 | 大森実 | 2005年 | 國枝すみれ | | |
| 1963年 | 林三郎 | 2008年 | 高尾具成 | | |



2011年度新聞協会賞

菊池寛賞(受賞15回)

- 1963年 「点字毎日」発行の功績
- 1968年 企画「教育の森」
- 1976年 企画「宗教を現代に問う」
- 1978年 企画「記者の目」
- 2001年 旧石器遺跡取材班「旧石器発掘捏造」
- 2014年 特別報道グループ取材班「老いてさまよう」



2021年度新聞協会賞

日本ジャーナリスト会議賞(受賞21回)

- 1998年 「劣化ウラン弾報道」
- 1999年 「防衛装備品調達に絡む不正の追及報道」
- 2000年 「片山隼君の交通事故に端を発した交通問題犯罪被害者対策キャンペーン」
- 2001年 「殺さないで 児童虐待という犯罪」
- 2002年 「防衛庁情報公開請求者リストの闇利用をスクープ」
- 2010年 「ルポ 資源大陸アフリカ暴力が結ぶ貧困と繁栄」
- 2011年 「検証 大震災」
- 2016年 「憲法骨抜きを許した内閣法制局の対応をスクープ」



2023年度新聞協会賞

科学ジャーナリスト賞(受賞10回)

- 2006年 元村有希子(大賞: ブログを含む「理系白書」の報道に対して)
- 2006年 大島秀利(アスベスト問題に粘り強く取り組み、住民被害の実態と救済を社会に訴えた報道に対して)
- 2010年 青野由利(「インフルエンザは征圧できるのか」の著作に対して)
- 2013年 再生医療取材班(「韓国人に未検証の幹細胞治療」を含む再生医療検証報道に対して)
- 2015年 須田桃子(大賞: 「捏造の科学者 STAP 細胞事件」の著作に対して)
- 2016年 会川晴之(本紙連載「核回廊を歩く〜日本編」に対して)
- 2019年 鳥井真平(「『ハゲタカジャーナル』をめぐる報道」に対して)
- 2020年 「幻の科学技術立国」取材班(「誰が科学を殺すのか 科学技術立国『崩壊』の衝撃」の著作に対して)
- 2023年 鳥井真平、柳楽未来(「福井大教授『査読偽装』をめぐる報道」に対して)
- 2026年 三股智子(大賞: 先住民族の遺骨返還をめぐるスクープと一連の報道)



毎日新聞

デジタル

ニュースサイト「毎日新聞デジタル」は、有料記事を含めたすべての記事が月額980円で読み放題の「スタンダードプラン」、PCやスマホなどで新聞紙面と同じように読めるビューアも利用可能な月額3,200円の「プレミアムプラン」の2本立て。いずれのプランも世界的な経済紙「ウォール・ストリート・ジャーナル」(WSJ)の日本語版、英語版、中国語版ニュースサイトが読み放題です。両プランにはお得な6カ月コース(スタンダード4,500円、プレミアム14,940円)と12カ月コース(8,400円、28,800円)もあります。英語版のニュースサイト「The Mainichi」とWSJのコンテンツを活用した英語学習用のサブスクリプション「ニュースで学ぶ英語 毎日×WSJ」(月額500円)も人気です。毎日新聞デジタルとは別に、一つの分野に特化した無料のサイトもあります。「Hanasone」(ハナソネ)は「今」を忙しく生きる女性向けのサイトで、「毎日メディカル」は外部識者の寄稿や連載など、医療や健康に関する情報が満載です。(価格はいずれも税抜き)

ニュース以外のサイトも充実



Web



もっと楽しめる!!



英語学習をテーマにした毎日新聞のオンラインイベント



記者が出演する「ポッドキャスト」も充実

毎日新聞のコンテンツを文章以外でも楽しんでもらえるような取り組みも充実させています。ジャーナリズムの現場報告はもちろん、外部の専門家を招いてそのときどきのニュースの背景を深掘りするオンラインイベントを定期的開催しているほか、ラジオのように聴くことができるインターネット上の音声コンテンツ「ポッドキャスト」も配信を増やしています。ポッドキャストでは国際ニュースや政治・経済、社会全般、スポーツ、フィギュアスケートといったジャンルごとに、それぞれ得意とする一線記者やデスク、論説委員らが出演して最新ニュースを解説し、新聞では書ききれなかった秘話などもお伝えしています。

刊行物



(毎日新聞出版刊)



(毎日新聞出版刊)



(毎日新聞出版刊)



主なグループ会社・団体／友好会社

■ 新聞・放送・メディア

- (株) スポーツニッポン新聞社 ●(株) 毎日映画社 ●(株) 下野新聞社 ●(株) 福島民報社
- (株) ラジオ福島 ●(株) 毎日新聞ネット ●(株) 毎日教育総合研究所 ●(株) 内外切抜通信社
- 毎日新聞出版(株) ●(株) MANTAN
- (株) MEG毎日映画社 ●(株) ティスマン・サービス ●(株) 下野テレビ映像

■ 印刷

- 東日印刷(株) ●(株) 高速オフセット ●(株) 東日オフセット ●(株) 毎日新聞首都圏センター
- (株) 毎日新聞北関東コア ●(株) 毎日新聞九州センター ●(株) 毎日新聞北海道センター

■ ビル営業・管理

- (株) 毎日ビルディング ●堂島アバンザ管理(株)

■ 即売

- (株) 東都春陽堂 ●(株) 近販

■ 販売支援

- 毎日販売協栄(株) ●毎日新聞大阪開発(株) ●(株) 大毎協栄

■ 販売会社

- (株) 福島新聞販売センター ●(株) 毎日民報販売センター ●毎日新聞堂島販売(株)
- 毎日新聞福岡販売(株) ●(株) 毎日札幌センター

■ 折込広告

- 毎日折込(株) ●(株) ケンオリ ●(株) 新広社 ●(株) 毎日メディアサービス

■ 広告

- (株) 毎日広告社 ●(株) 毎日企画サービス ●大毎広告(株) ●(株) 西部毎日広告社
- (株) スポニチパートナー ●(株) スポニチプライム ●(株) 毎日アドビジネス

■ 新聞輸送・物流

- (株) 毎日新聞名古屋センター ●(株) SN・毎日物流センター

■ 本支社業務支援

- (株) 毎日新聞西部アシスト ●(株) 北海道毎日サービス ●(株) 毎日新聞大阪センター

■ その他

- (株) 毎栄 ●(株) エスティ・トーニチ ●日本新聞インキ(株) ●(株) 毎日文化センター(大阪)
- (株) トライ ●(株) 社会調査研究センター ●(株) 毎日みらい創造ラボ ●東都新聞発送(株)

■ グループ団体

- 毎日信用組合 ●(一社) アジア調査会 ●(一財) 毎日書道会 ●(公財) 認知症予防財団
- (公財) 毎日新聞東京社会事業団 ●(公財) 毎日新聞大阪社会事業団
- (公財) 毎日新聞西部社会事業団 ●(一社) 総合デザイナー協会

■ 友好会社・団体

- (株) TBS ホールディングス ●(株) MBS メディアホールディングス
- (株) RKB 毎日ホールディングス ●(株) マイナビ ●(社福) 東京ヘレン・ケラー協会
- (社福) 日本ヘレンケラー財団

